

文教厚生委員長報告

令和元年6月定例会

文教厚生委員長報告をいたします。

文教厚生委員会に付託されました議案の審査結果等について報告いたします。

今定例会において本委員会に付託されました議案は、「島根県手数料条例及び警察に関する手数料条例の一部を改正する条例」の条例案1件、「専決処分事件の報告及び承認について」など一般事件案3件であります。

これらの議案について、執行部に説明を求め、慎重に審査いたしました結果、いずれの議案も全会一致をもって、原案どおり可決・承認すべきとの審査結果でありました。

次に、報告事項など所管事項調査における質疑、意見等のうち主なものについて申し上げます。

まず、教育委員会所管事項についてであります。

執行部から報告のありました「公立高等学校における県外入学者数の推移について」では、委員から、当県は全国に先駆け、県外入学者を受け入れる取り組みを行ってきたが、最近では他県でも大規模に県外入学者の受け入れ対策を行うようになってきている。今後、どのような取り組みを行っていくのかとの質問があり、執行部からは、違う価値観を持つ子ども達とふれあうことで多様性が生まれ、自分たちが住む地域の良さに気づくなど、非常に高い教育効果が得られていることから、引き続き推進していく必要があるが、地方創生との関係も密接に絡んでおり、受け入れ環境の整備や県内生徒とのバランスも考慮する必要があるため、市町村・学校・県教育委員会の三者で議論し、今後、地域別・エリア別にきめ細やかな対応を行っていききたいとの回答がありました。

また、別の委員からは、県外入学者と地域住民の方々との活発な交流が定住につながっていくのではないかと。卒業後も、地域の方達とのつながり・連携を続ける取り組みを期待したいとの意見がありました。

次に、健康福祉部所管事項についてであります。

執行部から報告のありました「第4次島根県たばこ対策指針の策定について」では、委員から、改正健康増進法が7月から施行されるが、学校や県庁舎・市町村庁舎での敷地内禁煙は、現在どのような状況かとの質問があり、執行部からは、小中学校では100%、高校では1校を除き敷地内禁煙が実施されている。また、県庁舎は未

実施で、市町村庁舎については一部で実施されているとの回答がありました。委員からは、たばこの受動喫煙はがん対策にも関わる問題であり、たばこ対策を推進する行政機関は徹底した取り組みをすべきで、今後の対応に期待したいとの意見がありました。

また、執行部から報告のありました「平成30年合計特殊出生率等について」では、委員から、合計特殊出生率は増加傾向だが出生数は減少しており、全国平均よりも減少率が高く、安心できる状況ではない。出生数減少の原因や問題がどこにあり、どのような対策を講じていく必要があるかを、皆が共通認識を持って取り組まなければ、知事が目標とする人口減少を食い止め、人口減少に打ち勝つ地域づくりは難しいのではないかと質問があり、執行部からは、定住や人口減少対策のため、若い世代に島根に残ってもらう、島根に戻ってもらう施策を、全庁をあげて取り組む必要があると回答がありました。委員からは、若い世代に、結婚に対する夢を持ってもらうことが必要である。結婚に向かっていけるような、収入を含めた総合的対策が必要であり、しっかり対応してほしいとの意見がありました。

また、執行部から報告のありました「島根県子どもの生活に関する実態調査」では、委員から、経済的な課題だけでなく、子どもの心理面での課題も把握できるようにすべきとの意見がありました。また、「ひきこもり等に関する実態調査」も含めて、できるだけ経年変化のわかる内容としてほしいとの意見がありました。

最後に、本委員会の調査テーマについてであります。

本委員会では、調査テーマを「高齢者が健康で生きがいを持って活躍できる島根に向けて ～生涯を通じた健康づくり・生きがいづくり～」に設定いたしました。

本県では、団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、誰もができる限り住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最終段階まで送ることができるよう、市町村と協力して、地域包括ケアシステムの構築に向けた取り組みを進めていますが、2025年以降も生産年齢人口が減少していく中で、福祉人材の不足も見込まれ、意欲・能力のある高齢者には、逆に社会の支え手となって、地域社会で大いに活躍してもらうことが期待されます。

そのためには、介護サービスや生活支援などのセーフティネットを確保した上で、健康づくりや介護予防の取り組みによる健康寿命の延伸、地域に根ざした生きがいづくりを通じた生涯現役意識の醸成、身体活動や社会参加を通じた認知症の予防等を図っていく必要があります。

こうした点を踏まえ、高齢化の先進県として、人生100年時代に向け、生涯を通じた健康づくり・生きがいづくりに向けた調査を行って参りたいと考えております。

以上、文教厚生委員会における審査の概要等を申し述べ、委員長報告といたします。